

第2章 大津市観光交流の現状と課題

1 観光交流をめぐる社会潮流

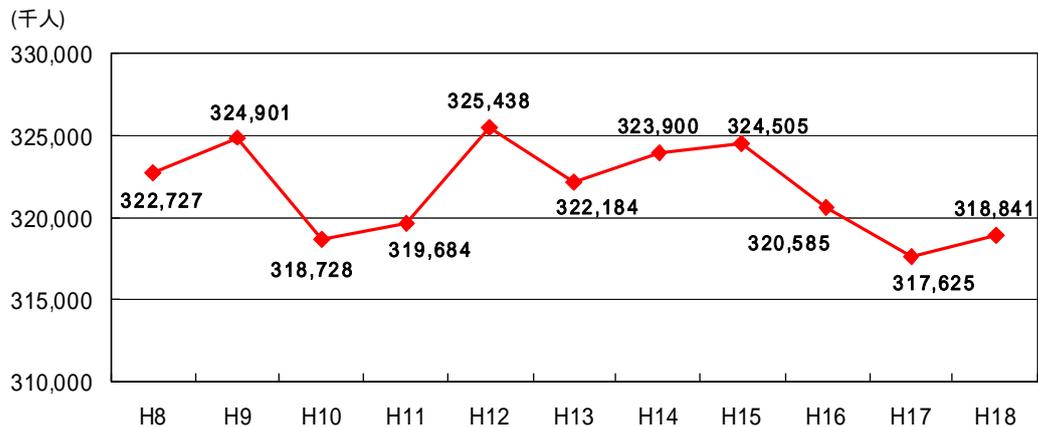
(1) 観光へのニーズと求められる役割の変化

1) 国内旅行者の動向

国内宿泊旅行者数は減少傾向

国内宿泊旅行者数は平成 18 年で 3 億 1,884 万人となっており、平成 12 年をピークとして減少傾向にあります。

【国内宿泊旅行者数の推移】



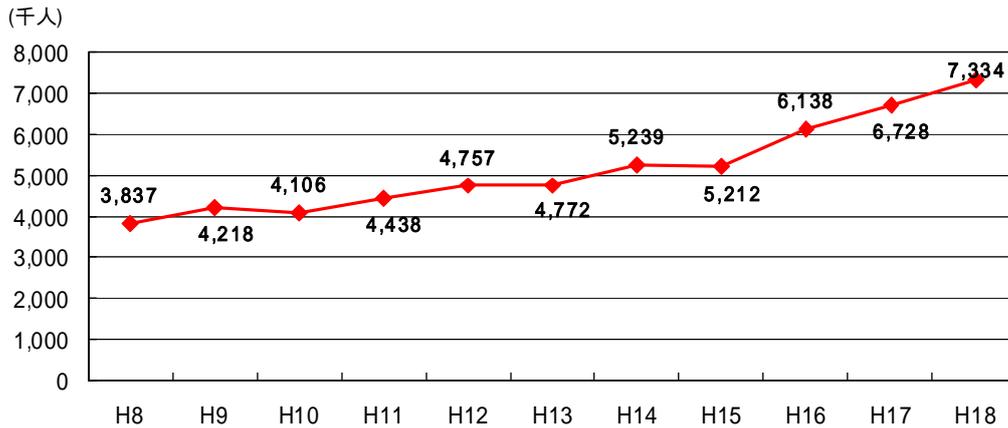
(注) 国内旅行者数は推計値

【資料】(財)日本交通公社「旅行年報 2006」(平成 18 年)

訪日外国人旅行者数は増加傾向

訪日外国人旅行者数は平成 18 年で 733 万人となっています。年々増加傾向にあり、過去 10 年間で、ほぼ倍増しています。

【訪日外国人旅行者数の推移】



【資料】国土交通省「平成 19 年度版 観光白書」

国内旅行は宿泊から日帰りへ

国内旅行における宿泊観光の「参加率」(旅行に占める宿泊の割合)は、平成 6 年がピークとなっており、平成 17 年では 5 割を割っています。この他、「参加回数」、「平均宿泊数」、「一回あたりの総費用」も減少しており、「安・近・短」という言葉で代表されるような、手軽な日帰り観光が主流となってきています。

【宿泊観光の参加率及び平均宿泊数等】

年度	参加率 (%)	参加回数 (回)	平均宿泊数 (泊)	一回当たり総費用 (円)
平成 17 年	49.2	1.08	1.6	39,160
過去のピーク (平成 6 年)	60.2 (平成 6 年)	1.43 (平成 6 年)	2.20 (昭和 45 年)	48,100 (平成 2 年)

【資料】日本観光協会「観光の実態と志向 (第 25 回)」2006 年 12 月 (平成 18 年)

宿泊旅行は小グループ志向へ

家族や友人・知人などの小グループで旅行する人が、昭和55年には57.4%であったものが平成17年には82.7%と大きく増加しており、一方、団体は35.1%から8.3%へと激減しています。旅行スタイルは「団体旅行」型から「家族・小グループ旅行」型に変わったといえます。

【旅行同行者の傾向】

単位：%

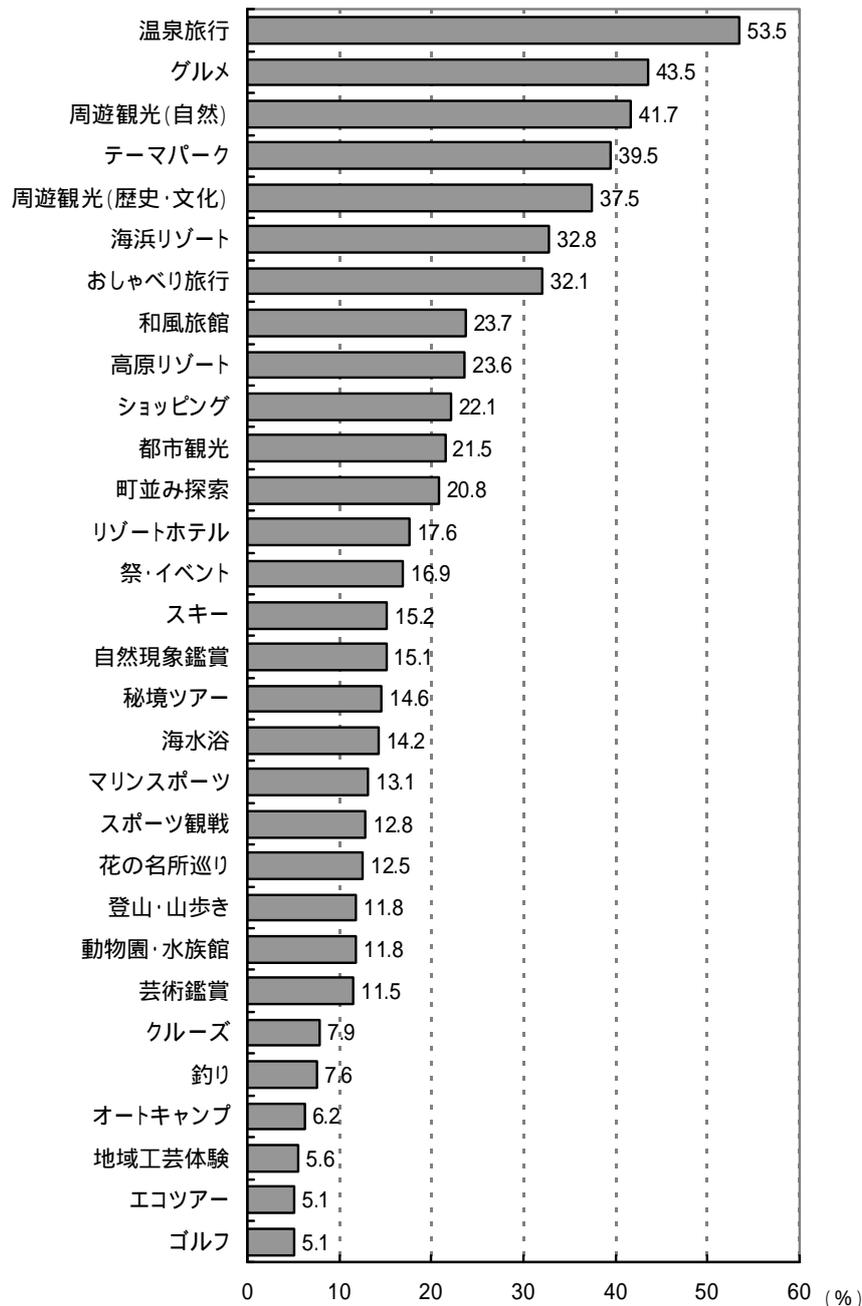
	昭和55年	平成15年	平成16年	平成17年
家族	24.1	41.7	40.8	43.4
友人・知人	23.9	26.8	27.2	26.5
家族と友人・知人	9.4	12.4	12.5	12.8
(小グループ計)	(57.4)	(80.9)	(80.5)	(82.7)
職場・学校・地域などの団体	35.1	11.1	10.9	8.3
自分ひとり	3.9	4.1	3.8	4.5
その他	3.6	3.9	4.8	4.5

【資料】日本観光協会「観光の実態と志向（第25回）」2006年12月（平成18年）

行ってみたい旅行は5年連続「温泉」が1位

行ってみたい旅行の1位は「温泉旅行」(53.5%)で、以下「グルメ」(43.5%)「周遊観光(自然)」(41.7%)「テーマパーク」(39.5%)「周遊観光(歴史・文化)」(37.5%)の順となっています。温泉旅行は5年連続1位となっています。

【行ってみたい旅行のタイプ】



【資料】旅行者動向 2004 (平成 16 年) (財)日本交通公社

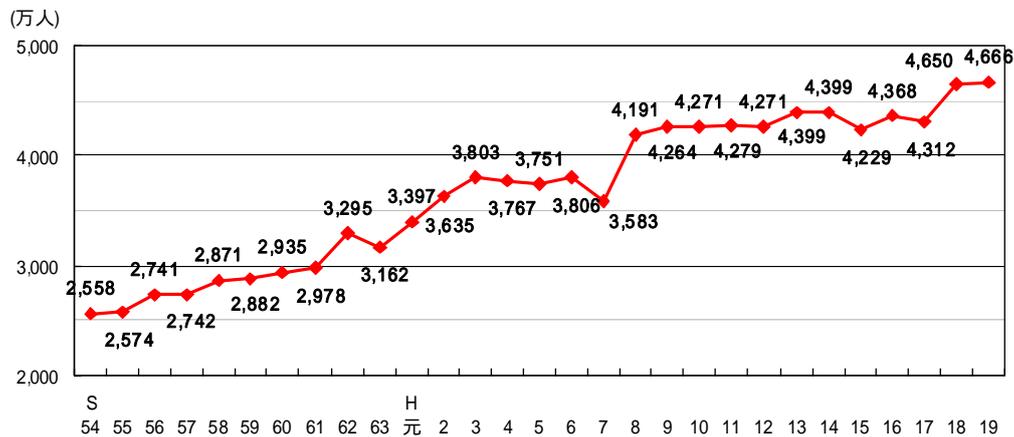
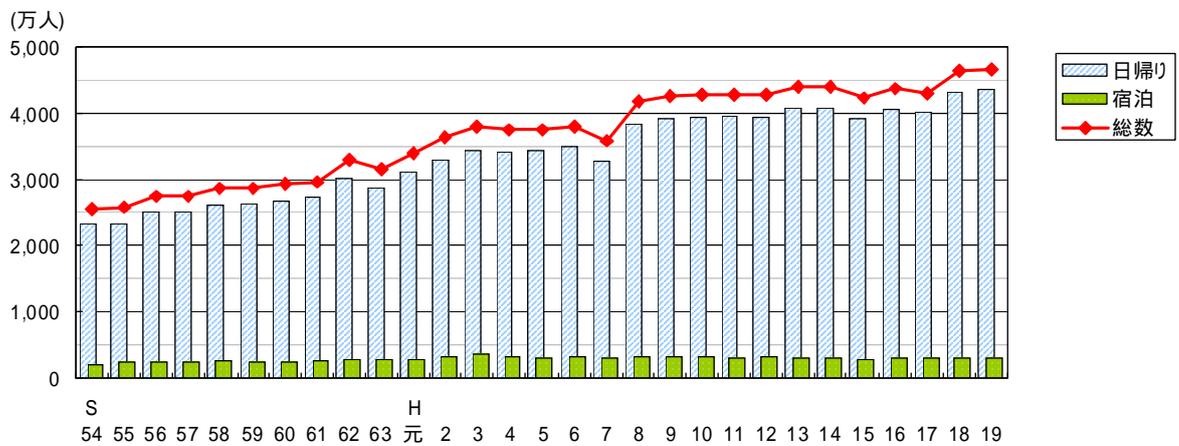
2) 滋賀県への旅行者の動向

観光客数は増加傾向

滋賀県への観光客数は年々増加しており、平成19年で4,666万人となっています。そのうち93%が日帰り観光客で占められ、宿泊観光客はごくわずかです。

昭和54年からの伸びをみると、総数では2,108万人、約82%増ですが、日帰り客が2,007万人、約86%増、宿泊客は101万人、約47%増と、日帰り観光への傾向が強まっていることが伺えます。なお平成7年の観光客数の減少は阪神・淡路大震災の影響が考えられます。

【滋賀県内旅行者の推移】

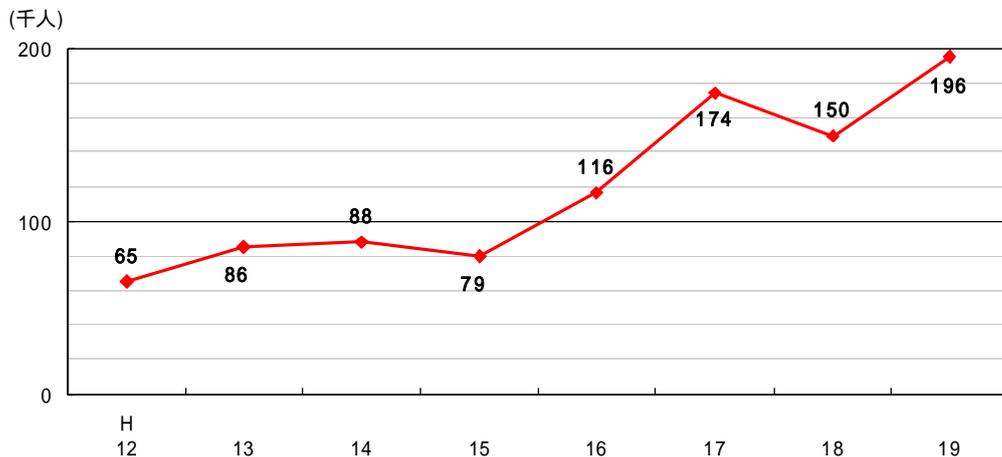


【資料】平成19年 滋賀県観光入込客統計調査

外国人観光客数は増加傾向

滋賀県へ来訪する外国人観光客数は、平成19年で約20万人となっています。近年は増加傾向にあり、最近7年間では約3倍と著しい伸びをみせています。

【滋賀県内外国人旅行者の推移】

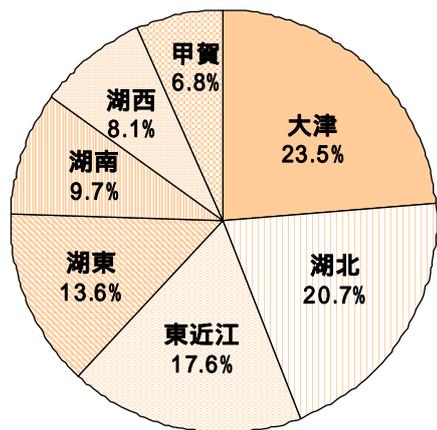


【資料】平成19年 滋賀県観光入込客統計調査

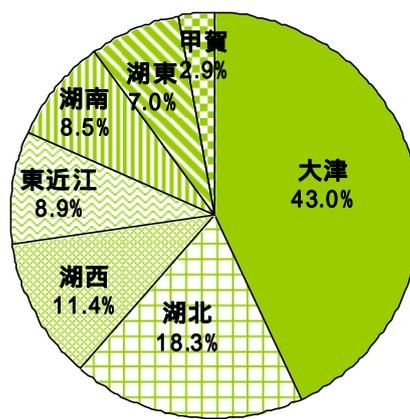
延観光客、宿泊客とも「大津」地域が多い

地域別で見ると平成19年の延観光客数、宿泊客ともに「大津」が多くなっています。

【滋賀県内各地域の延観光客数比率】



【滋賀県内各地域の宿泊客数比率】



【資料】平成19年 滋賀県観光入込客統計調査

(2) 今後の展望

旅行者数・層

今後、日本の人口は引き続き減少することが予測されていますが、ここ数年で定年を迎える1,000万人を超えるといわれる団塊の世代をはじめ、自由な時間を有する退職後の高齢者層の旅行への参加が益々増えることが予想されます。

一方で、若者の外出の減少、旅行離れが進んでおり、国内旅行者は相対的に中高齢者の比重が高まっていくと思われれます。

旅行形態

社会の成熟化、個人嗜好の多様化等により、旅行の形態は、団体で周遊し名所を見物する旅から、小グループで滞在し体験や学習を楽しむ旅へと変化しています。このような変化に伴い、1回限りの訪問ではなく、気に入った場所にはリピーターとして何度でも訪れ、地域を様々な角度から楽しむような旅が増えてきており、今後もその需要が増えると考えられます。

【旅行形態の比較】

	マストツーリズム（発地型観光）	地域ツーリズム（着地型観光）
旅行形態	団体（規格型、受動型） 周遊型、通過型 見学型、宴会型 非リピート利用	個人、家族、小グループ（企画型、能動型） 潜在型、交流型 体験型、学習型 リピート利用
企画・運営	都市部（出発地の旅行会社）	地域（到着地）の自治体、住民、NPO、企業
旅行商品	全国画一型 施設（ハード）主体 大ロット・少～中品種	地域資源活用型、環境共生型 運営（ソフト）主体 小ロット・多品種

【資料】「観光振興と魅力あるまちづくり 地域ツーリズムの展望」佐々木一成,2008.2.25,学芸出版社

外国人来訪者

訪日外国人来訪者の数は国の方針もあって年々増加しており、滋賀県への外国人来訪者の数も同じく増加傾向にあります。この傾向は続くと考えられますが、受け入れ側にも外国語による情報提供や表記、情報発信の工夫、交流促進など様々な取組が求められています。

リピーター(repeater)

旅行・宿泊・買い物・食事などで、同じ観光地、ホテルや店を何度も訪れて利用する人のこと。繰り返しの訪問者を多くすることが、魅力的な観光地として顧客から支持されていることを現す。

マストツーリズム(mass tourism: 発地型旅行)

団体旅行に代表される、出発地（主に都市部）の旅行業者が企画するパック旅行のこと。旅行会社の販売規模を生かして、交通機関や宿泊先などを一括で安く仕入れることができるが、旅行企画が型にはまりやすく、個人の細かなニーズに対応できない弱点も持つ。

地域ツーリズム(着地型旅行)

旅の目的地（到着地）に所在する旅行業者が企画するパック旅行のこと。着地側が持つ自然歴史、産業、町並、文化、体験、交流などを重視して企画立案・実施される。旅行者の滞在時間の増加や地域のファンとしてリピーターが育つことが期待できる。

2 大津市観光交流の特性

(1) まちの成り立ち

自然豊かな地勢

大津市の地形は、南北に細長く、比良山系、比叡山といった山地に周囲を囲まれ、一方がびわ湖に面しています。湖西地域は階段状の地形が特徴的であり、湖南地域では、醍醐山地、田上山地や丘陵地、さらには、唯一、びわ湖から流れ出す瀬田川といった豊かな自然に囲まれています。冬にはスキー、夏には山や湖岸でのレジャーを楽しむことができます。

歴史的背景

歴史的背景に目を向けると、667年天智天皇は近江大津宮に遷都し、政治改革を進めたことから、近江大津宮錦織遺跡をはじめ、様々な寺院跡が残されています。

奈良時代から平安時代にかけては、近江国府の所在地として政治の中心に位置するとともに、最澄によって創建された比叡山延暦寺は後に多くの鎌倉仏教の開祖を輩出しました。鎌倉・室町・戦国を経て江戸時代に至るまでは、文化をはじめ、軍事上、物資の中継基地の重要な位置をしめ、港町、宿場町、城下町として栄えました。これらの多くの歴史文化遺産と風光明媚な自然があいまって、近江八景に代表される特色ある歴史的景観を形成してきました。

市内の多様性と京都市とのつながり

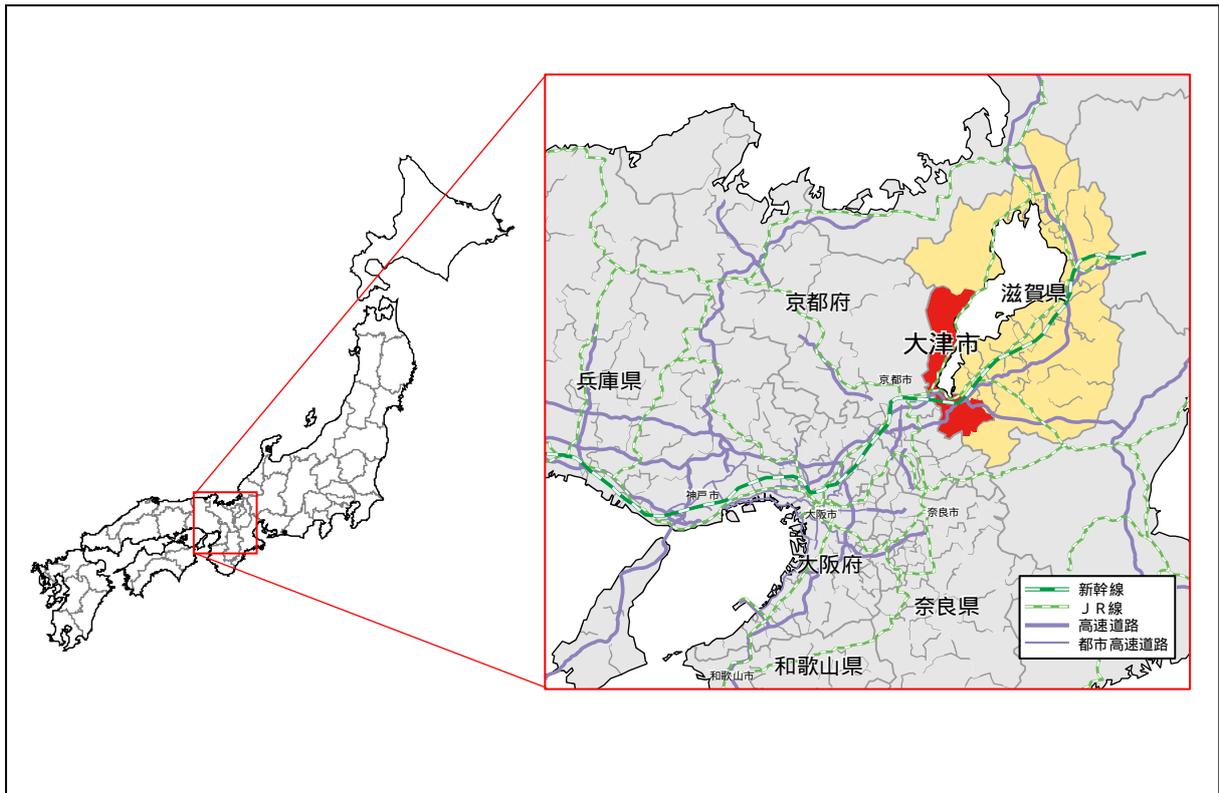
大津市は、その地形が細長く、地域ごとに多様な自然環境や歴史・文化的背景を有しています。このことが地域毎の個性的な魅力を生みだし、多様性の高い地域資源が豊富な都市であるといえます。また隣接する京都市とは中心市街地間が10kmと近く、歴史的にも現在の都市活動においても相互のつながりが深くなっています。

交通の要衝という立地

大津市は、かつて東海道、中山道などを通って京の都に上る最後の宿場町として、また北国街道との分岐点として、さらには、浜大津はびわ湖の湖上交通を束ねる港町として栄えました。現代においても、JRや名神高速道路など幹線交通網が市内を通り、京都駅も近く、近隣地域はいうまでもなく全国からのアクセスが便利な場所となっています。

近江八景
石山の秋月、勢多(瀬田)の夕照、粟津の晴嵐、矢(八)橋の帰帆、三井の晩鐘、唐崎の夜雨、堅田の落雁、比良の暮雪が現在の近江八景。

【大津市の位置】



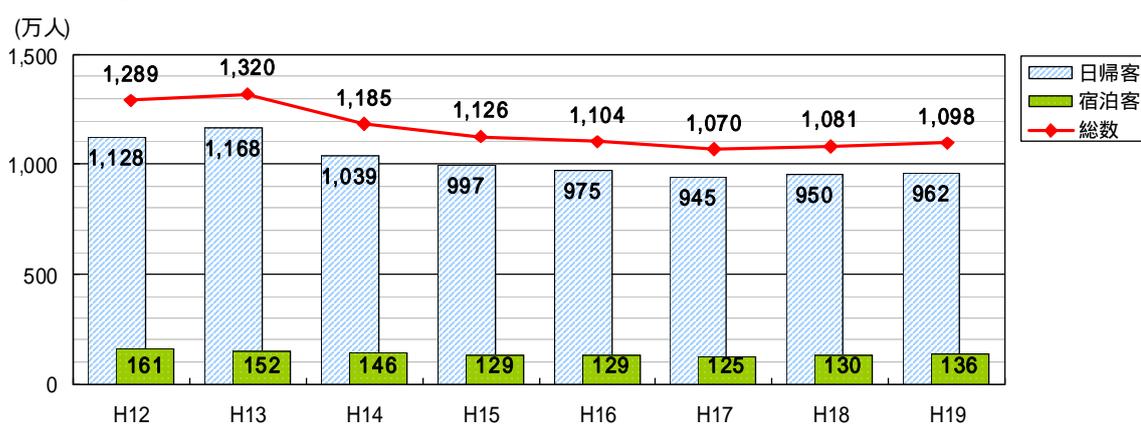
(2) 観光客

1) 観光入込客数

入込客数は減少傾向

平成19年の大津市観光入込客数は1,098万人であり、87.6%が日帰り客で占められています。入込客数は減少傾向にあり、平成19年でピーク時（平成3年約1,400万人旧大津市のみ）の78.4%となっています。

【大津市観光入込客数の推移】

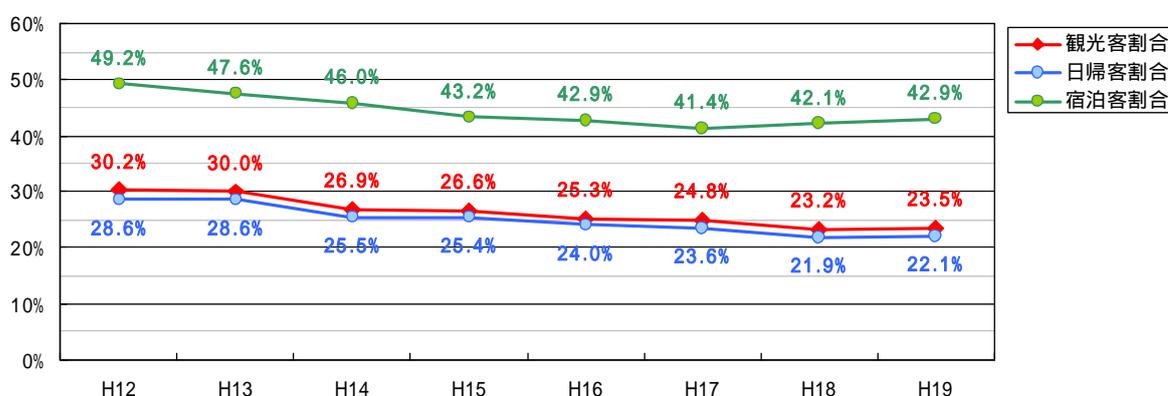


【資料】滋賀県観光入込客統計調査

滋賀県に占めるシェアは縮小傾向に

大津市観光入込客数が滋賀県に占める割合は「入込客数」、「日帰り客数」、「宿泊客数」とともに減少しています。

【滋賀県観光入込客数に占める大津市の推移】



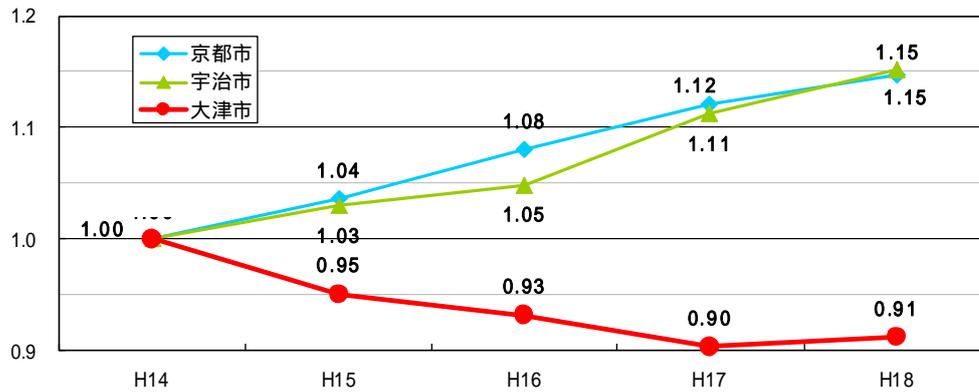
【資料】滋賀県観光入込客統計調査

観光入込客数

観光地を訪れた観光客の数のことで、地方公共団体がその地域の宿泊観光客、観光施設の入場者などを調査し公表している。地域の観光客の傾向や動向を探り、観光政策の参考にするための基礎データとなる。

隣接する京都市、宇治市は増加

観光客数の推移を近隣市と比較すると、大津市が減少傾向にあるのに対して、京都市、宇治市とも増加傾向にあります。

【大津市と近隣市との観光入込客数伸び率の比較】

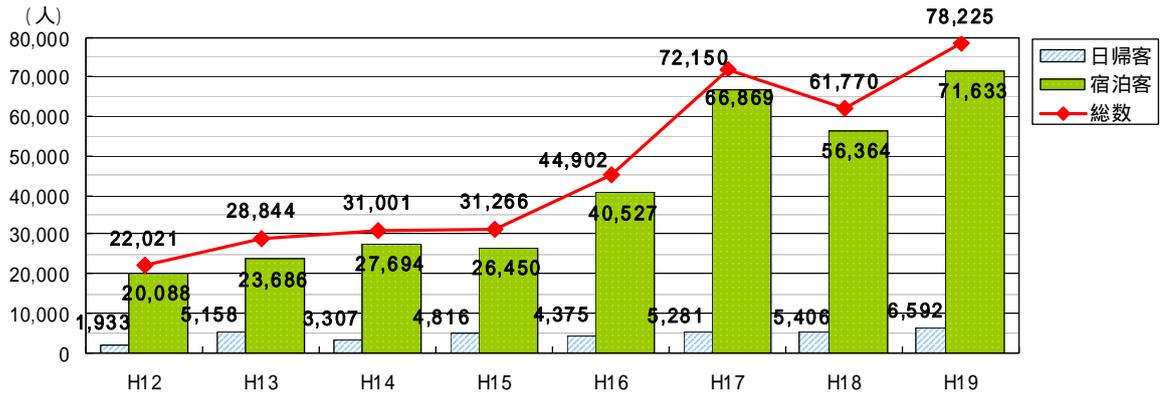
注：数値は平成14年を1とする指数
【資料】京都府観光・コンベンション室

2) 外国人観光入込客数

外国人観光入込客数は大幅に増加

大津市への外国人観光入込客数は平成19年で78,225人で、平成12年からの7年間で約3.6倍と大幅に増加しています。また、外国人に関しては宿泊客が大部分を占めています。

【大津市外国人観光入込客数の推移】

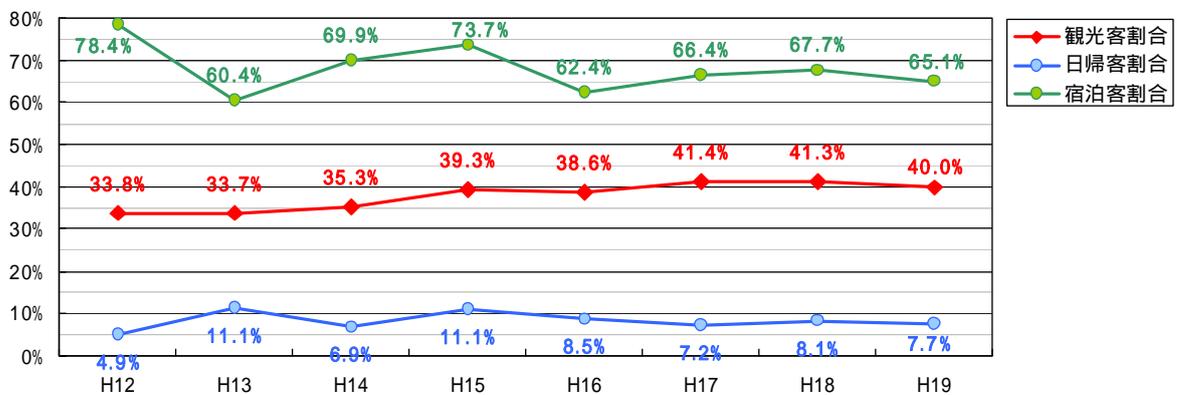


【資料】滋賀県観光入込客統計調査

滋賀県に占めるシェアは横ばい傾向

大津市外国人観光入込客数が滋賀県に占める割合は、平成19年の外国人の「観光客」は40.0%、「日帰り客数」は7.7%、「宿泊客数」は65.1%となっています。推移状況を見ると、ほぼ横ばい傾向にあります。

【滋賀県外国人観光入込客数に占める大津市の推移】



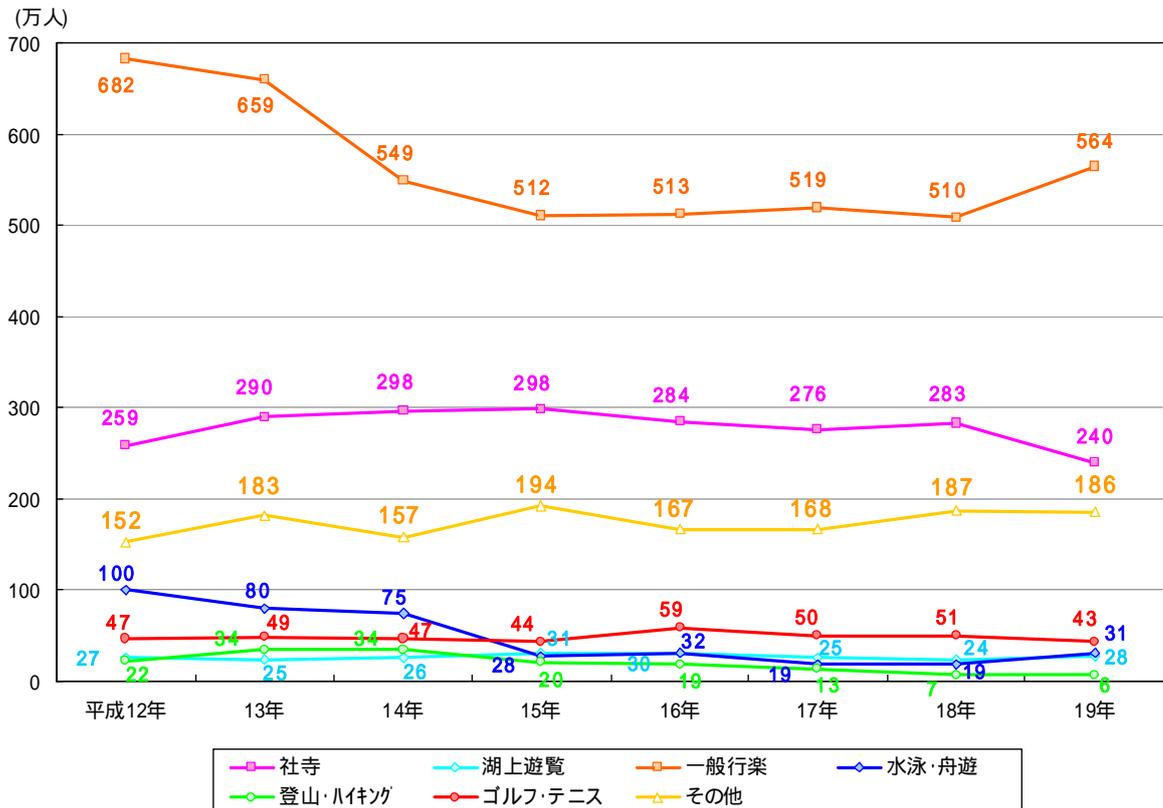
【資料】滋賀県観光入込客統計調査

3) 目的・季節・地域

観光目的は「一般行楽」が半数、次いで「社寺」

大津市の目的別観光入込客数は、平成19年で「一般行楽」が564万人（51.4%）と最も多く、続いて「社寺」の240万人（21.9%）という順序となっています。推移をみると、「一般行楽」、「水泳・舟遊び」が減少傾向となっています。

【大津市の目的別観光入込客数推移】

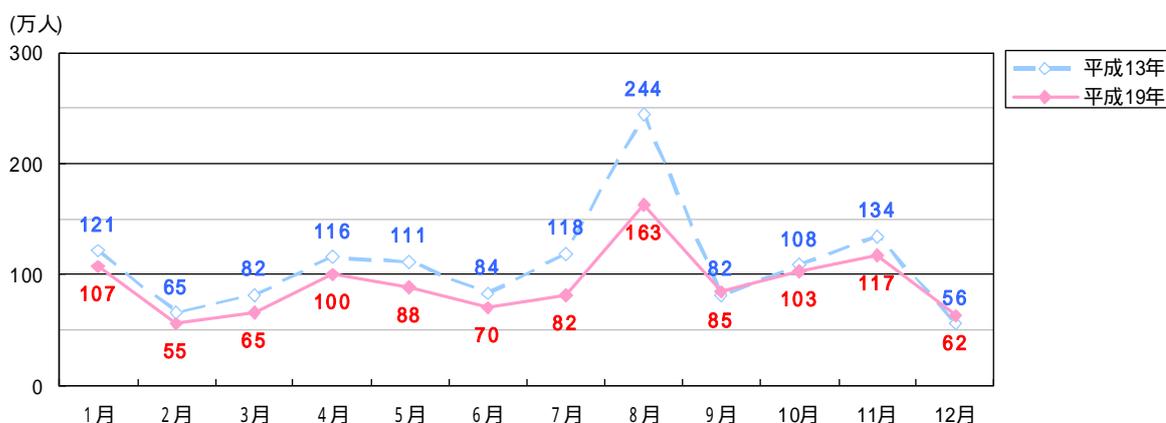


【資料】滋賀県観光入込客統計調査

月別では8月が突出するが、季節変動は小さくなっている

平成19年度の月別観光入込客数は8月が163万人と最も多いですが、平成13年と比べると81万人の減少であり、月別の差は小さくなってきています。季節で見ると、平成13年では夏場がもっとも観光入込客数が多かったことに比べ、平成19年では他の季節との差が少なくなり「春」、「夏」、「秋」ではほぼ同じ位となっています。これは、夏季に集中していた観光客の入込が四季それぞれにバランスが取れてきたと考えられます。

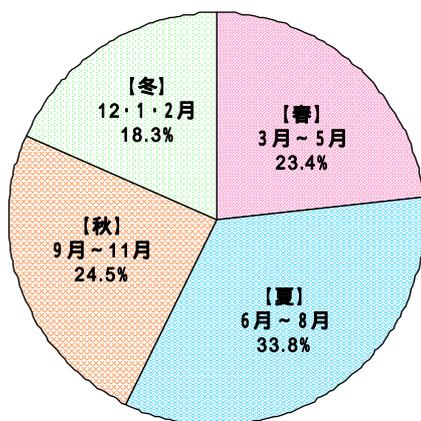
【大津市の月別観光入込客数】



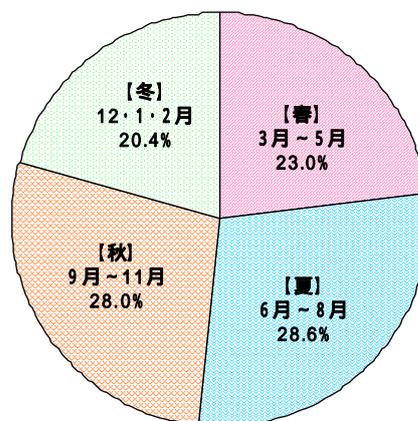
【資料】滋賀県観光入込客統計調査

【大津市の季節別観光入込客の割合】

平成13年



平成19年



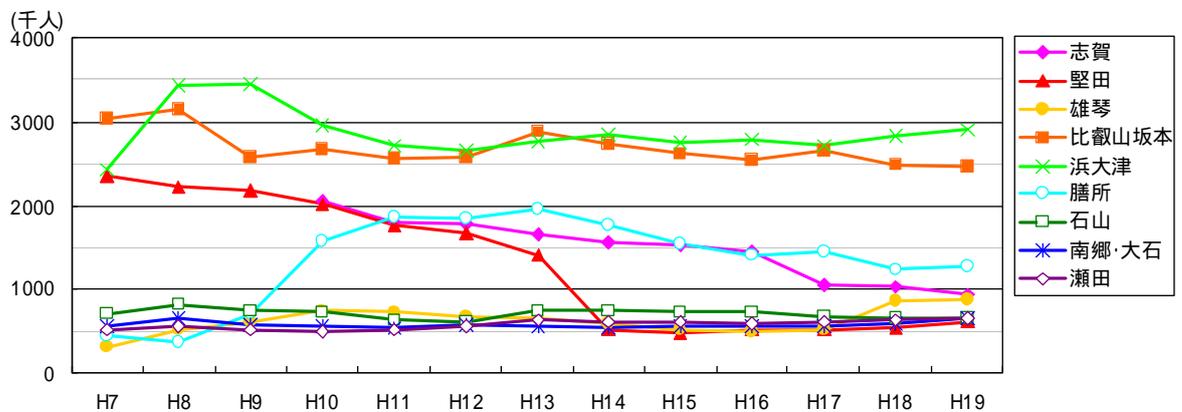
【資料】滋賀県観光入込客統計調査

地域別では「浜大津」、「比叡山坂本」が上位

大津市の地域別の入込客数は「浜大津」、「比叡山坂本」が1、2位を占めています。

「堅田」は平成10年までは3位でしたが、その後入込客数が減少し、びわ湖タワーが閉鎖された平成13年以降は入込客数が少なくなっています。「膳所」は、平成9、10年にかけて入込客数を大きく増やし、平成19年は3位となっていますが、これは大津PARCO（オープン平成8年）やびわ湖ホール（同平成10年）等の影響であると考えられます。

【大津市の地域別観光入込客数推移】



【資料】滋賀県観光入込客統計調査

4) 観光客の意識と行動

(大津市「平成18年度びわ湖大津観光旅行実態調査」より)

来訪者は関西圏からが最も多い

大津市への来訪者の居住地は、関西圏では「大阪府」(22.2%)が最も多く、ついで「滋賀県」(14.9%)となっており、これらを含む関西地方からが58.8%を占めます。関西圏以外では、「関東・東北・北海道」が15.8%と遠方からの来訪も多くなっています。

2回以上来訪のリピーターが3分の2を占める

大津市への来訪が、「初めて」(29.6%)の人が最も多いのですが、これに「6回以上」(20.5%)、「3回目」(13.3%)などが続き、県外来訪者のうち65.6%がリピーターとなっています。関西圏からの来訪が多いことを合わせて考えると、近隣府県から気軽に訪れる観光地といった性格が強いと考えられます。

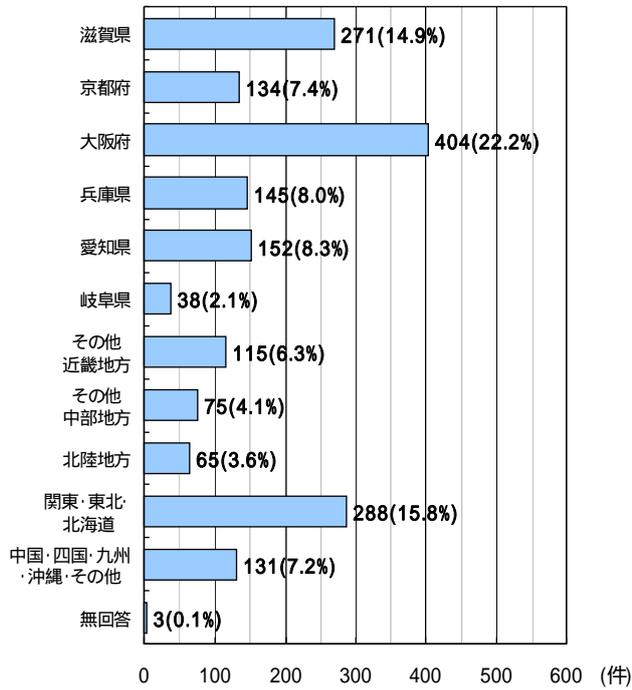
旅行目的は「自然景観」、「歴史文化」で7割を超える

大津市への旅行目的は「自然景観類」(57.6%)、ついで「歴史文化」(34.9%)となっており、この2つで9割以上を占めています。

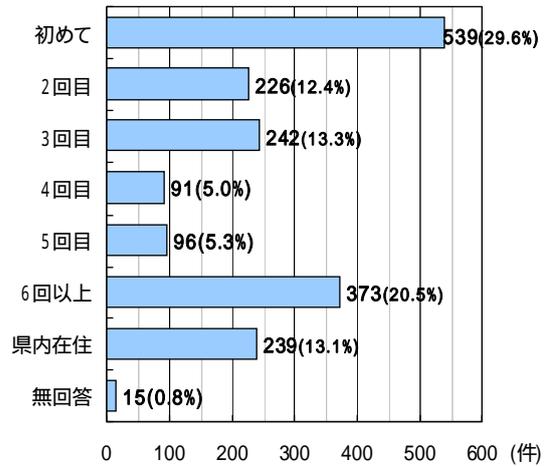
旅行予算は低予算の人が多い

大津市への旅行予算は「～1万円」(29.8%)、ついで「5千円未満」(19.9%)となっており、低予算での旅行ニーズが高くなっています。

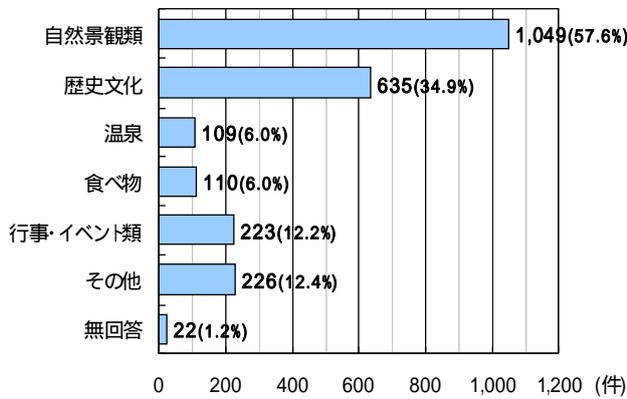
【大津市訪問者の居住地】



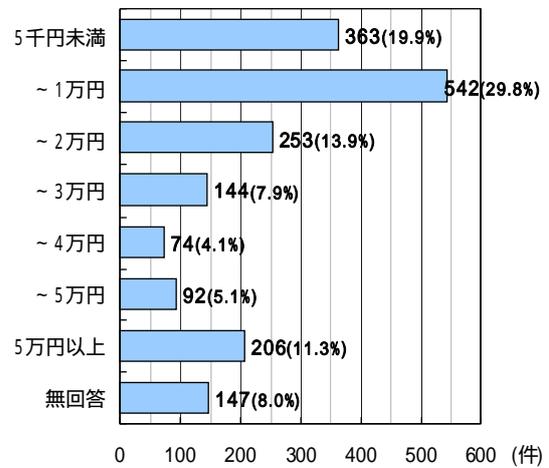
【大津市に来た回数】



【旅行目的（複数回答可）】



【今回の旅行での一人当たり予算】



【資料】平成18年度びわ湖大津観光旅行実態調査

(3) 観光資源

1) 主な観光資源

大津市内では「比叡山ドライブウェイ」、「延暦寺」などの入込客数が多い

平成19年の滋賀県における観光地ではベスト30に大津市の施設が9つ入っています。中でも、4位、12位、16位が比叡山関係であり、比叡山が大津で最も集客力のある観光地といえます。ただし、比叡山延暦寺の平成19年の入込客数は54万7千人で、滋賀県でもっとも集客力のある黒壁ガラス館の4分の1ほどになっています。平成17年にオープンした「あがりゃんせ」は29位に入っています。

【平成19年滋賀県観光入込客数ベスト30】

順位	観光地名	市町名	入込客数(人)
1	黒壁ガラス館	長浜市	2,113,900
2	多賀大社	多賀町	1,776,800
3	彦根城	彦根市	876,200
4	比叡山ドライブウェイ	大津市	734,500
5	滋賀県立希望が丘文化公園	野洲市、湖南市、竜王町	682,300
6	伊吹の里(道の駅)	米原市	674,800
7	日牟礼八幡宮	近江八幡市	620,800
8	道の駅「竜王鏡の里」	竜王町	619,200
9	豊公園	長浜市	611,700
10	八幡堀	近江八幡市	610,800
11	長浜オルゴール堂	長浜市	609,600
12	比叡山延暦寺	大津市	546,800
13	道の駅 藤樹の里あどがわ	高島市	533,000
14	みずどりステーション(道の駅)	湖北町	495,500
15	滋賀県立琵琶湖博物館	草津市	451,800
16	奥比叡ドライブウェイ	大津市	427,900
17	びわ湖鮎家の郷	野洲市	427,500
18	夢京橋キャッスルロード	彦根市	420,900
19	琵琶湖ホテル	大津市	379,200
20	滋賀県立陶芸の森(産業展示館)	甲賀市	372,300
21	近江神宮	大津市	366,000
22	近江舞子水泳場	大津市	362,700
23	ウェルサンピア滋賀	近江八幡市	362,300
24	あいとうマレットステーション(道の駅)	東近江市	358,500
25	マキノ高原	高島市	355,400
26	道の駅 びわ湖大橋米プラザ	大津市	351,700
27	伊吹山ドライブウェイ	米原市	350,300
28	びわ湖大花火大会	大津市	350,000
29	あがりゃんせ(スパリゾート雄琴)	大津市	334,200
30	アグリパーク竜王	竜王町	326,600

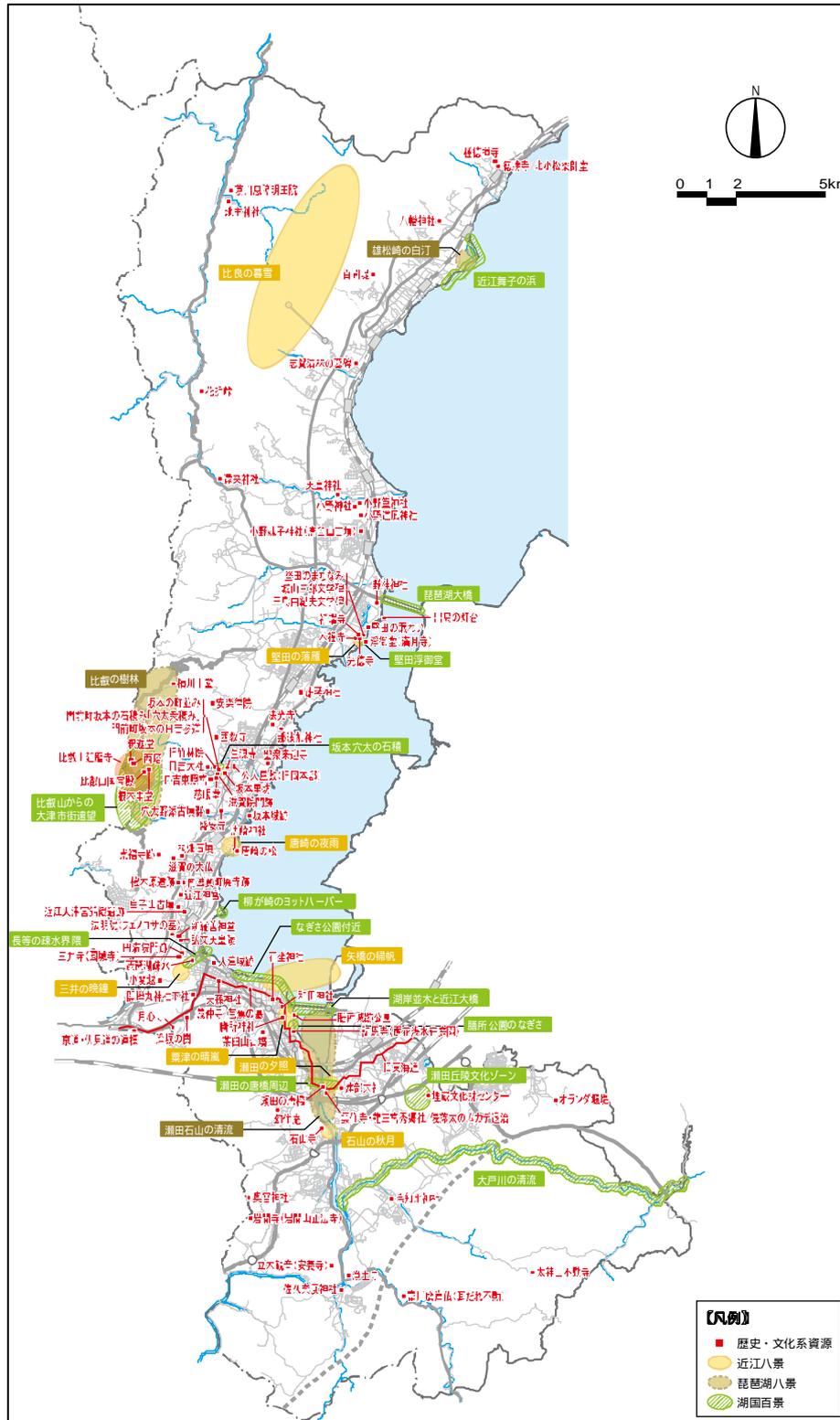
(注) 公開了承施設についてのみ掲載。

【資料】平成19年 滋賀県観光入込客統計調査

2) 観光資源の分布

歴史・文化系資源と景観系資源

歴史に裏付けられた多くの史跡、社寺仏閣、今に残る近江八景等の名勝などの自然といった観光資源があります。



都市・レジャー系資源と自然系資源

多くの山岳と日本一の湖といった豊富な自然やレジャー施設、温泉、交通の要衝として発展した市街地の施設などがあります。



文化遺産

一級の有形・無形文化財が数多く存在する

大津市は、古代から近代にかけてさまざまな歴史の舞台に登場してきた地域であることから、世界遺産に登録されている比叡山延暦寺、国宝 36 点をはじめとする数多くの有形・無形の文化財が今に残されています。

【世界遺産】

区分	総数	文化遺産	自然遺産	複合遺産	備考
世界	878	679	174	25	名称「古都京都の文化財 (京都市・宇治市・大津市)」
日本	14	11	3	0	
滋賀県	1	1	0	0	
大津市	1	1	0	0	

【有形文化財】

区分	所在	総数	絵画	彫刻	工芸品	書籍・典籍・古書	考古資料	歴史資料	建造物
国宝	全国	1,076	157	126	252	282	43	2	214
	滋賀県	55	4	4	4	20	1	0	22
	大津市	36	3	3	3	17	1	0	9
重要文化財	全国	12,648	1,956	2,628	2,415	2,591	567	154	2,337
	滋賀県	806	99	376	64	72	9	5	181
	大津市	293	59	91	21	51	7	4	60
滋賀県指定	滋賀県	302	36	72	43	66	8	6	71
	大津市	61	6	8	12	12	6	2	15
大津市指定	大津市	88	18	24	11	8	7	3	17
大津市内所在数		442	83	123	44	71	20	9	92

(注) 重要文化財の件数には、国宝の件数も含む。

【無形文化財等】

区分	所在	総数	無形文化財	民俗文化財		史跡・名勝・天然記念物			伝統的建造物群保存地区	選定保存技術	文化的景観
				有形	無形	史跡	名勝	天然記念物			
特別	全国	161	-	-	-	60	29	72	-	-	-
	滋賀県	3	-	-	-	2	0	1	-	-	-
	大津市	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
国指定	全国	3,583	105(140)	206	257	1,605	311	939	83	68(81)	9
	滋賀県	85	1 (1)	0	3	40	21	13	3	2 (2)	2
	大津市	24	1 (1)	0	0	15	5	2	1	0 (0)	0
滋賀県指定	滋賀県	81	4 (5)	10	8	36	15	6	0	2 (3)	
	大津市	10	2 (2)	4	1	0	3	0	0	0 (0)	
大津市指定	大津市	28	1 (1)	6	5	10	1	5	0	0 (0)	
大津市内所在数		62	4 (4)	10	6	25	9	7	1	0 (0)	0

- (注) 1. 史跡、名勝、天然記念物の件数には、特別史跡、特別名勝、特別天然記念物を含む。
 2. 名勝・史跡は名勝に含む。
 3. 無形文化財、選定保存技術は件数で、() の数は保持者、認定者、団体の数を示す。
 4. 平成 21 年 1 月 1 日現在

[資料] 大津市教育委員会文化財保護課

食・祭

伝統的な「食」、「祭」が多い

鮎寿しや鴨料理などびわ湖の自然や生活習慣に培われた伝統的な食べもの、大津祭など古くから行われてきた祭が継承されています。

さらに、びわ湖大花火大会やびわ湖開きに加え、各社寺のライトアップ、「大津まちなか食と灯りの祭」などの新しいイベントも開催されています。

【食】

	品名	地域
食 品	そば	比叡山・坂本
	近江茶	膳所・比叡山
	比叡ゆば	比叡山
	大津地酒	浜大津
グ ル メ	しじみご飯	石山・瀬田
	近江牛	瀬田等
	鉄鉢料理（精進料理）	比叡山・坂本
	ゆば懷石	浜大津
	湖魚佃煮	堅田・膳所・石山等
	鴨料理	堅田等
銘 菓	鮎寿し	志賀・堅田・膳所等
	三井寺力餅	浜大津
	みたらし団子	比叡山・坂本（唐崎）
	關伽井	浜大津
	落雁	浜大津等
	近江あられ	雄琴・西大津

【資料】びわ湖大津観光協会ホームページより作成

【大津の祭・イベント】

日にち	イベント名	会場
1月1日	大戸開き	日吉大社
正月明け土日	近江神宮かるた祭 (名人位戦クィーン位戦高松宮杯)	近江神宮
3月13日	比叡山大護摩供大法要	比叡山延暦寺
3月第2土曜	びわ湖開き	大津港一帯
3月26日	比良八講	大津港～びわ湖上～近江舞子浜
4月上旬	春のライトアップ	三井寺・琵琶湖疏水一帯
4月12日～14日	山王祭	日吉大社
5月3日～4日	龍神祭	近江舞子水泳場
5月16日～18日	千団子まつり	三井寺
5月第3日曜	青鬼まつり	石山寺
6月10日	漏刻祭	近江神宮
7月18日	太鼓まわし	葛川明王院
7月28日～29日	みたらし祭	唐崎神社
8月上中旬	夏のライトアップ	瀬田の唐橋・石山寺山門
8月1日	びわ湖大津夏まつり	浜大津周辺
8月8日(注)	びわ湖大花火大会	大津港
8月17日	船幸祭	建部大社・瀬田の唐橋周辺
9月下旬	秋月祭	石山寺
10月体育の日の前日と前々日	大津祭	天孫神社・JR大津駅周辺
11月2日	しとぎ祭	小野神社
11月3日	近江神宮流鏝馬	近江神宮
11月中旬～12月上旬	秋のライトアップ	日吉大社・旧竹林院・西教寺・滋賀院門跡・日吉参道
11月下旬	紅葉の坂本・石積みの里めぐり	坂本一帯
12月31日	鬼追い式	延暦寺根本中堂前
12月31日	三井寺除夜の鐘	三井寺
10月4日～12月31日	大津まちなか食と灯りの祭	大津市

(注) 8月8日が土曜日・日曜日の場合は、前日金曜日開催

[資料] びわ湖大津観光協会ホームページより作成

(4) 旅行商品・サービスの取組

1) 旅行商品などの取組

周遊ルート・コース

既存商品は歴史・文化を素材としたものが中心

周遊ルート・コースは、歴史・文化を素材としたものが中心となっており、そのなかで松尾芭蕉、城跡などのテーマに着目した組み立てがみられます。歴史・文化系以外では、エコツーリズム、銭湯めぐりなど、自然環境やまちなかの資源を活かし、体験や発見を重視したコース設定もみられます。

エコツーリズム(eco tourism)
生態系や自然保護に配慮し、旅を通じて環境に対する理解を深めようという考え方、またそのような旅のしかた。自然環境への負荷を極力抑え、自然と共生する観光、地域の文化や歴史についても観光体験を通じて学ぼうとするもの。

【観光周遊ルート事例】

名称	概要	切り口	コースなど	主体、発行等
JR「滋賀を歩こう」	JRの各駅からテーマを決めて近辺の観光地をめぐり、県内で44コース、うち大津市は10コース(10駅)提案されてそれぞれのコースでチラシが作成されている。	歴史、文化、自然、まちなみの4テーマ。	【湖西線】北小松駅、近江舞子駅、和邇・小野駅、堅田駅、おごと温泉駅、比叡山坂本駅、大津京駅 【琵琶湖線】大津・膳所駅、石山駅	主体：JR 制作：びわこキャンペーン推進協議会
松尾芭蕉俳句遊歩地図	大津市内の松尾芭蕉の句碑を6エリアに分け地図上にルート、句を読んだ場所を紹介。	芭蕉が句を読んだ場所を切り口にしているの、合わせて紹介されているものは社寺仏閣・自然が多い。	「膳所エリア」、「石山エリア」、「堅田エリア」、「大津中北部エリア」、「大津南部エリア」、「志賀エリア」、「市内句碑一覧」	制作：びわ湖大津志賀観光振興協議会
びわ湖 大津散策マップ	「志賀エリア編」、「北部エリア編」、「中部エリア編」、「南部エリア編」と場所に応じてお勧めの場所、施設等を紹介。	詳細地図がアップになっており、銀行、観光案内所、トイレなど施設情報が豊富。モデルコースも目安の所要時間と合わせて掲載。	各エリアで「モデルコース」を2-3コース紹介。	発行：びわ湖大津観光協会、大津市観光振興課
比叡山麓 石積みのある門前町...坂本	坂本の見所を交通案内、施設の情報とともに紹介。	各施設の記事に加えて、JR比叡山坂本駅から、門前町坂本、延暦寺に至るまでの地図を图示。	「観光案内」、「比叡山マップ」、「観光と年中行事」など。	発行：坂本観光協会
ウォーキングで湖都大津銭湯めぐりマップ	ウォーキングと銭湯を合わせたもの。	「気軽に歩いてちょっと入浴」を切り口に。	「京浜大津北コース」、「JR大津駅ロング8字コース」、「JR石山駅北コース」、「JR石山駅南コース」など。	発行：財団法人 滋賀県生活衛生営業指導センター、滋賀県公衆浴場業生活衛生同業組合
近江歴史回廊	県内の歴史に関するルートについて10コースを提案。それぞれ8冊のガイドブックとして出版。	万葉の昔から戦国、江戸、近代までテーマに応じて10ルート。	「湖西周辺」、「近江戦国」、「東海道」、「中山道」、「万葉」、「近江商人」、「湖南観音」、「湖北観音」等。	発行：近江歴史回廊推進協議会
時間旅行	伝説や言い伝え、歴史上の人物とゆかりの深い場所をエピソードとともに紹介。	最澄、明智光秀、弁慶などのゆかりの地や、みたらし団子発祥の地であることなど、囲み記事を用いて紹介している。	地域では「志賀」、「堅田」、「坂本」、「比叡山」、「浜大津」、「石山・瀬田」。テーマでは「一口伝説」など。	発行：びわ湖大津志賀観光振興協議会
古都大津・滋賀歴史舞台を訪ねる	『大津・志賀ゆかりの人物の足跡を辿り、「古都」を再発見』というテーマで大津市内の史跡・名所を案内。	小野妹子、源信、最澄、天智天皇、松尾芭蕉、紫式部を切り口にしている。	「最澄 比叡に天台宗を開山し衆生の救いを志す」、「天智天皇 日本最初の律令国家が開花した」など。	発行：びわ湖大津志賀観光振興協議会
戦国の世を駆けぬけた幻の城跡を訪ねる大津の城跡	大津の城跡をテーマに紹介。	「ダンダ坊遺跡」、「堅田城」、「壺笠山城」、「宇佐山城」、「大津城」、「膳所城」。	「ダンダ坊遺跡 比良連峰に静かに眠る謎多き寺院遺跡」、「堅田城 信長軍、死力を尽くした湖上の激闘/堅田藩陣屋跡」、「膳所城 築城の名手、藤堂高虎が築いた、湖上の浮城」など。	発行：びわ湖大津志賀観光振興協議会
びわ湖・北部大津 なまめめぐり	大津北部の7つの地域をそれぞれの特徴を生かして紹介。	葛川、真野、真野北、堅田、伊香立、仰木、仰木の里の7つ。	「自然豊かな葛川」、「霊峰比叡」、「湖族の堅田」など。	発行：堅田観光協会
お宝NAV I	世界遺産、史跡・名勝などテーマごとに大津市内の見所を紹介。	「びわこ大津のお宝を探して」とのテーマで建築、仏像、工芸品を多くのカラー写真で図解。	「門前町坂本」、「近江大津京」、「世界遺産」、「代表的建造物」、「仏像の数々」、「歴史絵巻」、「民族文化」、「史跡・名勝」。	発行：びわ湖大津志賀観光振興協議会
緑と風と清流の里大石ガイドマップ	「リバーヒル大石 大津市サイクリングターミナル」を中心とした付近の紹介。	近辺の施設、名所・旧跡を詳細な地図とともに表示。	コース等は無し。	発行：瀬田川南部地区地域振興推進協議会
OTSU VISITORS` GUIDE BOOK	大津市内の見所をスタンダードな形でまとめたガイド。英語版あり。	「近江八景」、「歴史・遺産」、「景勝・観光」、「水辺と湯」、「自然」、「祭事・イベント」、「桜・紅葉」。	「唐橋・建部大社・石山寺・幻住庵」など。各テーマの名所の説明が多い。	発行：(社)びわ湖大津観光協会
湖都の十社寺	大津市で朱印をもらうことの出来る10社寺について場所、行事、所蔵文化財等を紹介。	この企画に合わせて、専用の御朱印用紙を販売。交通案内や観光案内所位置についても掲載。	「浮御堂」、「西教寺」、「延暦寺」、「近江神宮」、「日吉大社」、「三井寺」、「石山寺」、「建部大社」、「岩間寺」、「立木観音」。	発行：湖信会
湖社寺めぐり	大津市内の10社寺について、場所、行事等を紹介。	上記のものとの違いは、よりコンパクトにまとめている点。	10社寺の内容は上記と同じ。マイカーでの参拝コースが提案されている。	発行：湖信会
エコツーリズム関連	エコツアー総覧(http://ecotourism.jp/dantai/index.php)というサイトで全国のエコツアーがまとめられており、滋賀県内大津市内でもいくつか活動団体がある。	「ロッククライミング」、「山登り」、「ハイキング」、「キャンプ」等エコを切り口に多様なツアーが提案されている。	今森光彦里山塾 etc	

【資料】各主体のパフレット・HP等

キャンペーン

工夫を凝らしたキャンペーンが行われている

観光周遊への参加を促すために、割引クーポン、スタンプラリーなどをセットにしたキャンペーン等が行われています。また、源氏物語千年紀、美術館めぐり、比叡山 - 高野山の結びつけ等、新規性のあるテーマや組合せで関心を喚起しています。

【観光キャンペーン事例（平成 18 年～20 年）】

	名称	概要	切り口・内容	主体等
キャンペーン	源氏物語千年紀関連	大津千年紀と関連した場所を回る8コース（「石山寺」、「空蝉」、「紫式部」、「天智天皇」など）を提案。得特観光パスポートを発行。	源氏物語を切り口近辺の社寺仏閣等まで紹介、およびクーポンで拝観可能。	主催：社団法人びわ湖大津観光協会
キャンペーン	電車でのんびり、まるごと湖畔めぐり！湖都周遊	湖都古都・おおつ 1day きっぷ	小旅行をテーマに、名所・旧跡から遊びやカルチャースポットまで	発行：京阪電車
キャンペーン	源氏物語千年紀 in 湖都大津	石山寺をメインステージに千年紀を記念するイベントが続々開催「源氏夢回廊」。	「源氏物語千年紀 in 湖都大津」記念講演会、石山寺秋月祭、紅葉の石山寺ライトアップと夜間拝観	JR西日本「源氏物語千年紀 in 湖都大津」
定期観光バス	近江八景見聞録	近江八景（比良の暮雪、堅田の落雁、唐崎の夜雨、八橋の帰帆、粟津の晴嵐、石山の秋月、瀬田の夕照、三井の晩鐘）をテーマにした観光ルート。	「日吉大社」、「三井寺」、「三橋節子美術館」等各ルートに応じたもの	発行：びわ湖大津志賀観光振興協議会
スタンプラリー	源氏ろまんスタンプラリー	源氏物語千年紀に合わせたイベント。「源氏物語」にゆかりのある社寺京滋5カ所に設置されたチェックポイントをめぐり、スタンプを集める。	大津市内のチェックポイントは石山寺、三井寺（園城寺）。期間は平成20年3月30日～5月11日。	主催：京阪電気鉄道株式会社 後援：源氏物語千年紀委員会
スタンプラリー	比叡山スタンプラリー	毎年秋に比叡山内のチェックポイントを回るもの。	比叡山東塔、西塔、横川。その他西教寺、大津港など。例年9月下旬～11月下旬。	比叡山延暦寺参拝部
スタンプラリー	「比叡山高野山」スタンプラリー	比叡山エリアの2カ所または高野山エリアの2カ所でスタンプを集めるもの。	比叡山内は「ガーデンミュージアム比叡」、「プロヴァンスゲート」。期間は平成19年4月20日～9月2日。	京阪電鉄、南海電気鉄道
スタンプラリー	ぐるっと滋賀スタンプラリー	県内全域95箇所のポイントから、それぞれ湖北エリア、湖西・大津エリアから2つつつスタンプをもらう。	大津市内のチェックポイントは33箇所。期間は平成19年4月27日～平成20年2月29日。	びわこビジターズビューロー
スタンプラリー	ミュージアムスタンプラリー	滋賀の南部にある「滋賀県立近代美術館」、「佐川美術館」、「MIHO MUSEUM」、「滋賀県立陶芸の森陶芸館」のスタンプラリー。二館目以降入館料の割引等がある。	大津市内は「滋賀県立近代美術館」。期間は平成18年7月14日～11月25日。	湖南4館協働事業実行委員会事務局

【資料】各主体のパンフレット・HP等

2) 案内サービス

ボランティアガイドの活動

大津市内の観光ボランティアガイドは、下記団体の他、各地の観光案内所で活動されています。

【市内活動ボランティアガイド】

古都おおつ観光ボランティアガイド会の概要

会 員 数：22名

活動内容：大津駅観光案内所などを通じて大津市内を観光案内

経費負担：交通費 1000円のみ

案内実績：毎年 200件～300件

【資料】大津市市民活動センターHP より

(5) 観光施設・インフラ

1) 宿泊施設

「中部地区」、「雄琴・坂本地区」での宿泊施設の収容人数が大きい

大津市内の宿泊施設は、平成20年末で宿泊施設数が107件、収容定員は11,311人となっています。「中部地区」(4,484人)や「雄琴・坂本地区」(3,774人)では収容定員が多くなっています。「志賀地区」については、宿泊施設数が43件と多いものの収容人数は1,149人と少なくなっています。

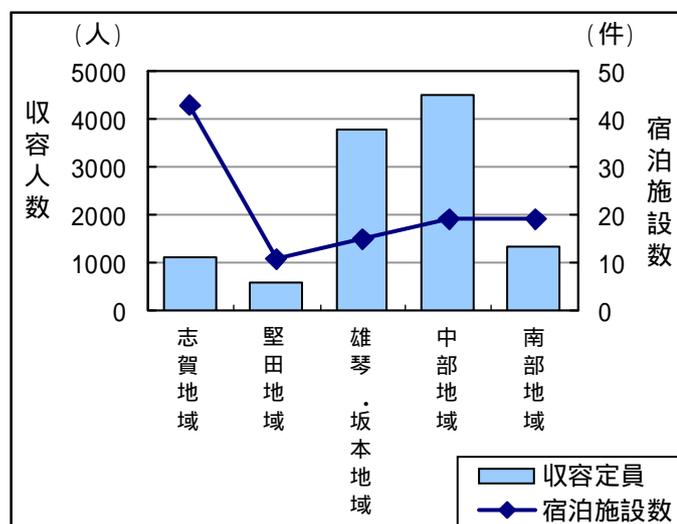
【宿泊施設数一覧】

	総数		旅館・ホテル等		厚生施設	
	宿泊施設数 (件)	収容定員 (人)	宿泊施設数 (件)	収容定員 (人)	宿泊施設数 (件)	収容定員 (人)
志賀地域	43	1,149	41	1,109	2	40
堅田地域	11	566	9	286	2	280
雄琴・坂本地区	15	3,774	14	3,689	1	85
中部地域	19	4,484	17	4,269	2	215
南部地域	19	1,338	17	1,243	2	95
合計	107	11,311	98	10,596	9	715

(注) 宿泊施設数は、H20のもの

宿泊収容定員は、人数が判明したものの積算

入込観光客数は、平成15～17年の志賀町を含む

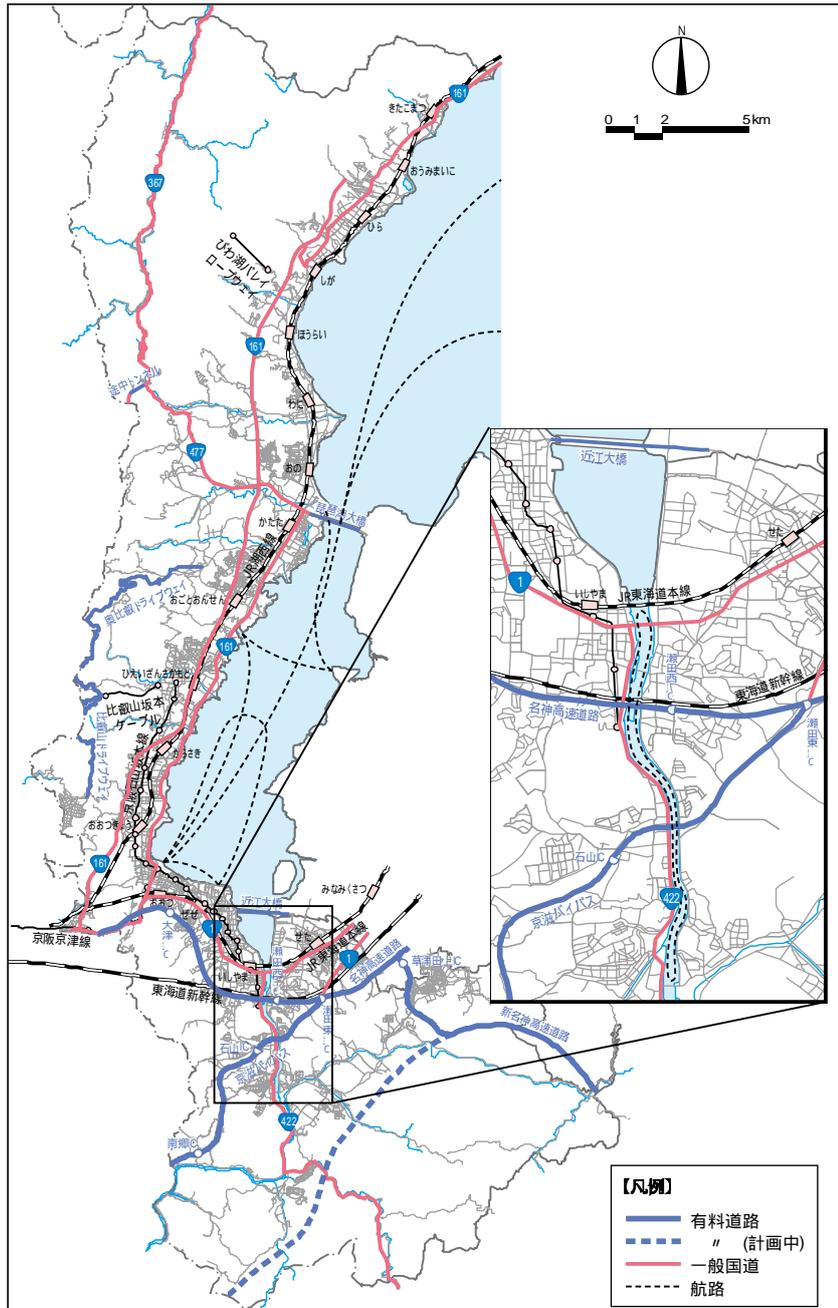


【資料】大津市統計年鑑より作成

2) 交通インフラ

市内主要観光地をカバーする交通インフラ

南北に長い地勢に合わせて道路網が形成されています。鉄道はJR、京阪電車が走っており、市内の主要部分をカバーしています。鉄道から離れた場所については路線バス網が比較的充実していますが、路線廃止などの動きもあり不便な地域が増えつつあります。この他、大津ならではの交通機関として、浜大津と瀬田川の湖上交通、比良山系でのロープウェイや、比叡山のケーブルカーが観光資源として親しまれています。



交通インフラ
道路、鉄道路線、バス路線など公共的な交通施設のこと。観光地には、観光施設や宿泊施設だけではなく、便利でかつ観光地らしい景観などにも配慮した交通施設が整っていることが重要。

(6) 推進体制

観光地の独自性を反映した 11 の観光協会 が活動している

市内には、志賀から瀬田川流域までの 11 の観光協会があり、各地域の独自性を活かした個別の活動を行っています。また、(社)びわ湖大津観光協会は、大津市全体としてのPRやキャンペーン、イベント、各観光協会間の調整等を行っています。



観光協会
民間団体や企業と共同で観光政策を推進する市町村や地区単位の団体で、地元の観光業者の多くが加盟している。観光イベント開催、観光案内、観光客の誘致、広報活動などを行っている。

3 大津市観光交流の課題

(1) 「観光」への取組方向の転換

「観光振興」から「観光交流」「観光まちづくり」へ

社会の成熟化や価値観の変化とともに、観光ニーズ・旅行形態が変化し、団体旅行で物見遊山してまわるような娯乐的「観光」は徐々に過去のものとなりつつあります。観光の対象も名高い観光施設だけでなく、地域の自然・歴史文化・生活を背景とする細やかな資源が対象となり、地域の様々な人がお迎えするなかで生み出される来訪者との交流が大きな魅力と感じられるようになってきました。

このような観光を進めることにより、来訪者の満足度が高まるだけでなく、地域にも様々な良い影響が生じてきます。従来の観光は、観光対象、観光に関わる事業者やその効果が及ぶ範囲も比較的限定的でしたが、多くの地域・地域主体が関わることで、地域活性化をはじめ、交流を通して自らの地域への愛着と自信を深めることなども期待できます。今後の大津市の観光振興は、この「観光交流」の考えを基本に進めていく必要があります。

そして「観光交流」を促進していくためには、観光資源の切り売りをする産業のひとつとして観光をとらえるのではなく、地域の資源を活かし、環境に磨きをかけ、多くの人の参画を促す、総合的なまちづくりとして取り組んでいく「観光まちづくり」の考えを基本に置いて取り組んでいくことが必要となります。

市民から外国人来訪者までをターゲットに

このような観光交流の対象者については、近隣からの日帰り来訪者、国内からの宿泊来訪者、そして、外国からの来訪者を視野に入れたバランスのとれた対応が必要です。

日帰り来訪者は、全体の来訪者の約9割を占めており、京阪神の気軽な観光地として大津市を楽しんでもらう層として重要です。加えて、多様な地域資源や人との交流を楽しむという観光交流の視点で見れば、これまで観光対象地と考えにくかった市内の地域でも魅力を見つけることができ、市民も交流の対象である来訪者となります。今後は、市民も含めた対応が求められます。

宿泊来訪者は観光消費額が大きく、積極的に受け入れを図ると共に、滞在日数を増やしていく工夫が必要です。

外国人来訪者の受け入れについては、これまで取組が十分でなく、今後の増加ポテンシャルが高いと思われる分野です。国や滋賀県をあげたインバウンド観光政策の動きも踏まえ、力を入れていく必要があります。

インバウンド観光(inbound tourism)

外国人の訪日旅行のこと。日本人が外国旅行することはアウトバウンド観光といい、一般的に外貨獲得のためインバウンド観光が重視される。2010年の訪日外国人旅行者数1,000万人を目標とする「ビジットジャパンキャンペーン」が、国をあげて取り組まれている。

市民・事業者・団体・行政協働の取組の環境づくり

観光交流・観光まちづくりは、観光事業者だけでなく、各地域での市民・事業者・団体の参画と取組が鍵となります。魅力的な資源の発見や活用、来訪者のお迎えサービス提供、地域魅力の基盤となる地域環境づくりなど、様々な取組の場面で市民・事業者・団体が観光交流に参加し、活動し、交流を楽しむことのできる、環境を整えていくことが重要です。

(2) 新たな観光資源の発見、活用

大津市には長い歴史、独特の地形などが生み出した、くらしや食、町並、風景、環境、まちづくり活動など、ソフト・ハードの地域資源が多くありますが、必ずしも観光の視点から活用が図られてきたわけではありません。観光へのニーズの多様化に対応して、未活用あるいは活用が不十分であった地域資源を発掘し、観光資源へと育て活かしていくことが重要です。

発掘・活用にあたっては、「環境」や「健康」など大津市の個性を活かせるテーマの設定、観光以外も含めた既存の取組の活用などを通じて、従来の枠にとらわれない新たな大津型ツーリズムを生みだしていくという積極的な視点が求められます。

(3) 「大津ブランド」の構築と発信

滋賀県・大津市の全国的な知名度は残念ながらあまり高くありません。観光地としてアピールするためには、魅力的・個性的な地域というイメージを持ってもらい、訪ねてみたいという気持ちにつながる地域ブランドを確立することが重要な課題となります。このことは、京都市をはじめとする周辺観光地との差別化を図る上でも必要です。

そのために、これまでも観光素材として用いられてきた日本一のびわ湖を新たな視点でブランド化することなどが考えられますが、ブランドづくりは単なる言葉づくりではなく、地域の資源や活動などの総体として存在する、すなわちブランドにふさわしい地域を育てるという点を忘れてはなりません。

(4) 資源・イメージ・取組のネットワーク化

南北に長い地理的条件や各地の歴史的背景の違いなども重なり、大津市の観光や個別観光資源が持つイメージ、さらに観光関連の取組にも統一性が欠け、大津市全体で見たときの魅力が拡散しがちになっています。

観光交流基本計画を進める段階で、観光資源を結びつける物語やテーマ、テーマに沿った周遊ルート、ルートを楽しむための仕掛け、これらを整備し維持するしくみなど、個々の魅力的な資源を結びあわせて価値を向上させていくネットワークの構築及び市外も含めた連携も視野に入れながら取り組む必要があります。

(5) 観光交流サービス機能・基盤の充実

観光交流を楽しんでもらうためには、大津市を知り、訪問し、歩き、滞在し、楽しむためのサービス機能の充実が必要です。これまでもサービス向上のための取組が進められており、これらの維持・向上を図るとともに、観光交流・観光まちづくりの観点から、対象となる分野や地域、市民等の関わりのあり方等を勘案して方策を検討する必要があります。そのため、ホスピタリティある案内、広域アクセスと地域内の観光交通、来訪者層に対応した多様な食事・買物・宿泊・休憩、情報提供、地域景観・環境などの充実が求められます。

(6) 観光来訪誘致機能の整備

観光を本来の目的とはしていないコンベンション やイベントの開催は、宿泊客の増加や大津市の魅力発信に結びつき、観光交流促進の手段のひとつとなります。大津市には大規模なホテルも多く、国際レベル・全国レベルのイベントや会議なども開催されていますが、現状では、観光の側面からの積極的な誘致活動が十分とはいえません。

学術、教育、スポーツ、ビジネス等様々な目的のコンベンションやイベントへのサービスが提供できるよう、現状の施設・機能の把握、誘致推進する体制の充実等を進める必要があります。

コンベンション(convention)
学術やビジネス等の大会、会議、見本市、展示会などのこと。滞在型観光の目玉となり、特に国際コンベンションは、集客規模が大きく、地域経済への波及効果も大きい。

(7) 外国人誘客に向けた総合的取組

国では、インバウンド観光を推進し日本への外国人来訪者数は増加の一途であり、滋賀県、大津市への外国人入込客数も増加傾向にあります。高い外国人集客力を誇る京都市に隣接することもあり、外国人は今後の誘客層として大きな期待が持たれますが、市としての取組はほとんど行われてこなかったのが現状で、対策の推進が急務となっています。

そのために、京都にはない大津の魅力を生かしたプログラムづくり、受け入れ環境の整備、おもてなし意識の醸成、効果的な情報の提供など、外国人受け入れ促進に向けた取組を総合的に進めていく必要があります。

(8) 各主体連携のための推進機能の整備

既存観光分野以外のまちづくりや市民活動も含めた市内各地域での取組の活発化を図るとともに、大津市全体としての観光交流の魅力を生みだしていくため、これらの活動を相互に繋げ、それぞれの力が発揮できるように進めていくマネジメント機能の充実が重要となります。

このマネジメントの役割は、現状では各地域の観光協会が中心となっていますが、各協会が個別に活動し相互連携や全市的な動きが十分でないほか、観光資源・人材・資金等を活用して効果的な取組を育てていくような機能も不足しています。観光協会間の連携体制をはじめとして、多様な主体・活動をつなぐ組織の整備や観光交流プロデューサーやコ・ディネーターの配置などが求められます。